

第 3 次岡山県がん対策推進計画の分野別施策の進捗状況

令和 5 年 7 月 4 日 (火)

1 がんの予防

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①たばこ対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙をやめたい人がやめることによって喫煙率を減少させ、未成年の喫煙をなくし、受動喫煙を防止する環境整備を行い、喫煙問題を改善すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 改正健康増進法施行に伴い、令和元年度から禁煙・完全分煙実施施設認定事業に代わり、敷地内全面禁煙実施施設認定事業を実施しているところであり、その認定数は令和5年3月末現在で、累計1,115件となった。 主に小中学生を対象として、たばこの健康への影響を普及啓発するため、各保健所において普及講座を実施している。(令和4年度は17回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 「敷地内全面禁煙実施施設」認定事業 たばこからの健康影響普及講座事業
②感染症対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 肝炎の正しい知識の普及やウイルス検査の実施、肝炎医療体制の確保等により、肝炎の早期発見、早期治療を行い、肝がんの発症を予防すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度から第3次岡山県肝炎対策計画を策定し、普及啓発やウイルス検査の実施、肝炎医療体制の確保により肝炎の早期発見・早期治療に繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域肝炎対策サポーター研修会の開催及びサポーター養成 肝炎一次専門医療機関及び保健所における無料肝炎ウイルス検査の実施 B型・C型ウイルス性肝炎の治療に要する医療費助成(肝炎治療特別促進事業) 肝炎ウイルス検査陽性者への検査費用助成(肝炎陽性者重症化予防推進事業)

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
③生活習慣の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・がんと関連する飲酒、身体活動等の生活習慣を改善すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合は、男性は数値目標に達したものの、女性は増加している。 ・日常生活における歩数、運動習慣者の割合、適正体重を維持している人の割合等、生活習慣の改善に関する数値目標は、概ね悪化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールは、若い世代への普及啓発をするために出前講座を精神保健福祉センターで実施 ・栄養委員によるアクティブガイドの普及啓発

2 がんの早期発見

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①がん検診の受診率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・すべてのがん検診の受診率（市町村、医療保険者及び全額自己負担実施分含む）を、いずれも 60%以上とすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肺がんのみ 50%を超えているが、他は 40%台である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛育委員の個別訪問による受診勧奨 ・がん検診推進事業（国庫補助金）の実施等による受診率向上の取組 ・保健所による出前講座の実施 ・ラジオ、広報誌及びチラシ等での受診勧奨
②がん検診の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が行うがん検診の精検受診率を 90%以上とすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がんのみ 90%を超えているが、他は約 70～80%台である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県がん精密検診結果収集管理事業による精検結果の収集・分析 ・岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会による精度管理

3 がんの診断・治療に関する医療水準の向上

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院、がん診療連携推進病院の充実・強化	<ul style="list-style-type: none"> がんの診断、治療、緩和ケアについて切れ目のない医療が提供できるよう、拠点病院等や地域の医療機関、かかりつけ医の役割を明確にした体制整備を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 国が、県・地域がん診療連携拠点病院を7病院、地域がん診療病院を2病院指定するとともに、県独自にがん診療連携推進病院を4病院整備し、がん医療提供体制の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く5つの拠点病院と2つの地域がん診療病院に、運営費を補助している。
②放射線療法・薬物療法・手術療法及びチーム医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> 拠点病院等は、県民が安全かつ安心して質の高いがん医療が受けられるよう、手術療法、放射線療法、薬物療法等を効果的に組み合わせた集学的治療を実施する医療提供体制の強化を図ること。 拠点病院等は、がん患者とその家族のQOL維持向上が図れるよう、入院や在宅での療養生活など、患者の状況に応じたサポートを提供できるような多職種によるチーム医療体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点病院等では、集学的治療を提供する体制を有している。 拠点病院等は、緩和ケアチームや口腔ケアチームといった専門チームを組織するとともに、それらのチームに、医師だけでなく他の診療従事者からも介入依頼ができる体制を整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く5つの拠点病院と2つの地域がん診療病院に、運営費を補助している。
③がん診療ガイドラインに沿った医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> がん治療を実施している医療機関は、がん患者が質の高い治療を受けられるよう、最新のガイドラインに準じた治療を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点病院等では、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国から直接補助を受ける岡山大学病院と岡山医療センターを除く5つの拠点病院と2つの地域がん診療病院に、運営費を補助している。

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
④がんと診断された時からの緩和ケアの推進	<ul style="list-style-type: none"> どこに住んでいても適切に緩和ケアが受けられるよう、緩和ケア研修を修了した医師等を増やすこと。 緩和ケアが普及するよう、県民へ啓発すること。 緩和ケアを正しく理解する県民の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修会を修了した医師は着実に増えているが、地域の病院からの研修会参加が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県医師会に委託して緩和ケア研修会及び緩和ケアフォローアップ研修会を開催している。 ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に、緩和ケアについて紹介したページを掲載し、県民への啓発を図っている。
⑤地域における医療連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 拠点病院等とかかりつけ医との連携が円滑に行えるよう、地域連携クリティカルパスの活用を進めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携クリティカルパスの利用件数は、計画策定時よりも減少してきている。 各拠点病院等における利用件数をがん診療連携協議会で共有するとともに、内容の更新を随時行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」に地域連携クリティカルパスの説明を掲載し、啓発を図っている。
⑥在宅医療（療養）提供体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> がん患者が住み慣れた家庭や地域での療養を選択できるよう、急性増悪時における円滑な受入など在宅療養を支える医療機関の増加。 自宅のほか老人ホーム等望んだ場所で最期を迎えることのできるがん患者とその家族の割合の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> がんによる在宅死亡の割合は、令和3年度時点で21.3%となっており、平成29年以降増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療介護多職種連携人材育成事業や医療介護連携体制整備事業等において、研修会を実施し、多職種連携による在宅医療提供体制の推進を図っている。

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
⑦がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	<ul style="list-style-type: none"> より質の高い医療が提供できるよう、がん医療に携わる医療従事者のさらなる資質向上及び専門看護師並びに認定看護師の養成。 	<ul style="list-style-type: none"> がん看護専門看護師数 17 名（令和 4 年 12 月末） がん関係の認定看護師（緩和ケア、がん化学療法看護、がん性疼痛看護、乳がん看護、がん放射線療法看護）、特定認定看護師（緩和ケア、がん薬物療法看護、乳がん看護、がん放射線療法看護）数 66 名。（令和 4 年 12 月末） 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県看護協会が実施する地域包括ケア関係認定看護師（がん関係認定看護師を含む）等養成促進事業に必要な経費の一部を補助している。

4 患者・家族への支援

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①相談窓口の充実	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援センターの周知を図り、がん患者が安心して相談できるようにすること。 どこの相談支援センターで相談しても、等しく質の高い、専門的な相談支援が受けられること。 がん患者とその家族及び身近な人を亡くされた方々への相談支援体制の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数は、計画策定時に比べて約 1,500 件程度増えているが、依然として相談支援センターの認知度が低いことが課題となっている。 ピアサポーターの資質向上を図り、相談支援体制の充実を図っている。 グリーンケアのあり方については、引き続き検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」で相談支援センターの紹介を行っている。 岡山大学病院に委託してピアサポータースキルアップ研修を開催している。また、研修受講者の活動の場として、院内・院外のピアサポートも実施している。

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
②情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する情報を必要とする人が、必要な情報にアクセスできていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「がんサポート情報」のひと月の閲覧件数は、計画策定時に比べて150件程度増加し、1.5倍以上になっているが、引き続き周知を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する情報をまとめたホームページ「岡山がんサポート情報」を運営し、岡山県のがん医療や療養等に関する情報を発信している。 ・冊子「がんサポートガイド」を作成し、拠点病院等で患者に配布している。また、必要に応じて内容を更新している。
③患者会ネットワークの構築・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・患者団体間での交流や情報交換が図れるよう、患者団体のネットワーク強化を進めるとともに、患者団体の活動を支援すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者団体間での交流や情報交換が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大がん患者会ネットワーク会議を開催し、がん患者会だけでなく病院や関係団体も含めた情報交換・意見交換を実施している。 ・がん患者会への専門家派遣事業により、がん患者会が実施する研修会等へ専門家を派遣し、患者会活動を支援している。

5 がん登録の推進

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①院内がん登録の精度向上	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等は院内がん登録により、がん診療の実態を把握し、がん診療の質の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院等において、院内がん登録の精度向上が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・院内がん登録の予後情報収集等において拠点病院等と連携を行うなど、精度向上に努めた。

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
②がん登録データの活用	<ul style="list-style-type: none"> がん登録で得られたデータを利活用することにより、効果的な施策を実施すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 2016年に全国がん登録精度に移行し、DC01.3%、DCI2.3%(2019年)と登録データの精度が向上している。 院内がん登録の予後情報収集等において拠点病院等と連携を行うなど、精度向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国がん登録情報の罹患率、死亡率、予後情報をごん対策協議会等に提供し、施策検討に活用した。
③研究支援	<ul style="list-style-type: none"> がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動への支援が有効に行われること。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本対がん協会岡山県支部等との協働により、がん研究やがん対策に取り組む個人及び団体の研究・活動を支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県健康づくり財団による「対がん基金研究助成金」について、助成対象者の選考に参画するなど、がんに関する調査研究等の振興に努めている。

6 小児がん、AYA世代のがん対策

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①小児がん、AYA世代のがんの医療提供体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 小児・AYA世代のがん患者とその家族が安心して適切な医療や支援が受けられる医療提供体制を構築すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「小児がん中国・四国ネットワーク会議」が設置され、医療機関同士の連携を図っている。 妊孕性温存を望む小児・AYA世代のがん患者が、適切に妊孕性温存実施医療機関に繋がるよう、相談・紹介のフローが作成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 小児がん拠点病院である広島大学病院が開催する「小児がん中国・四国ネットワーク会議」に参加し、情報交換を行っている。 子供を授かることを望む患者に対し、妊孕性温存療法及び温存後生殖補助医療に要した費用の一部を助成している。 がんに関わる医療従事者向けの妊孕性温存に関する研修会を開催している。

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
②小児がん、AYA世代のがんに関する相談支援、連携体制の構築	・小児・AYA世代のがん患者とその家族が悩みなどについて気軽に相談でき、また必要な情報を得られるよう、計画期間中にその環境整備に取り組むこと。	・悩みなどについて患者会等で相談するとともに、必要な情報についてはがん相談支援センターにおいて情報提供している。	・拡大がん患者会ネットワーク会議や、がん患者会への専門家派遣事業により、患者会活動を支援している。 ・ホームページ「岡山がんサポート情報」や、冊子「岡山県がんサポートガイド」で相談支援センターの紹介を行っている。

7 がんの教育・普及啓発

分野別施策	個別目標	現状	県の主な取組
①学校におけるがんの教育の充実	・がんの予防、早期発見が進むよう、児童、生徒等へのがんの教育のあり方について検討すること。	・がん教育の充実に資するため、教職員対象の研修会を開催している。 ・医療関係者やがん患者会の方などによる外部講師リストを作成し、希望する学校へ講師を派遣する体制を構築している。	・がん教育普及推進研修会を開催した。(R5.2) ・外部講師リストを作成している。
②がんを正しく理解するための普及啓発	・がんの予防、早期発見・早期治療を進め、がんへの誤解がなくなるよう、より多くのがん患者とその家族、県民へ正しいがんの知識が広まること。	・出前講座や講演会等により、がんに関する普及啓発を実施。	・乳がん・子宮頸がん検診の必要性等について、県民の理解を広めるために出前講座を各保健所で実施

8 がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現

分野別施策	個別目標	現状	主な県の取組
①治療と職業生活の両立を支援するための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者が治療を受けながら働くことができる職場づくり。 ・がん患者が診断時から治療と就労を両立するために必要な情報の提供や相談支援が受けられる体制の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの拠点病院で、ハローワークや産業保健総合支援センターと連携した就労相談が定期的に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済団体に対して、医師、社労士などによる研修会を開催した。 ・岡山労働局が設置した「岡山県地域両立支援推進チーム」へ参画し、関係団体と連携し、両立支援の取組みを実施している。
②ライフステージに応じたがん対策	<ul style="list-style-type: none"> ・小児・AYA世代のがん患者・経験者とその家族に対して、利用可能な制度や相談機関等の周知を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊孕性温存療法への費用助成や、関係団体が実施する ・相談できる場として、がん相談支援センターや各患者会が活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体の支援事業について拠点病院へ周知するとともに、利用できる基金等について、冊子「がんサポートガイド」で紹介している。